

川崎競馬倶楽部

15th ANNIVERSARY

<http://www.kawasakikeiba.com>

since1990

〒212-0002 川崎市幸区小向仲野町15-4 川崎競馬倶楽部

2005年10月号

2006年JBC川崎で開催決定！



2006年11月2日(木)
JBCマイル (1,600m)

2006年11月3日(祝・金)
JBCクラシック (2,100m)

来年度のJBC開催場が川崎に決定しました！

第6回となる2006年はこれまでのプリントをJBCマイルとしてかたちを変え、二日間にわたってダート競馬の祭典が川崎競馬場を舞台に繰り広げられます。

JBCはこれまで大井競馬場、盛岡競馬場で開催され、川崎競馬場は今年の名古屋競馬場に次いで4場目の開催場となります。新たな開催形態にチャレンジする川崎競馬場でのJBCにご期待ください。

◆森 彪 開催執務委員長コメント

この度、来年の第6回JBCが川崎競馬場で開催されることになり、JBC実行委員会で決定されましたことを大変うれしく思っております。

当場では、これまでの「1日にGIやって、またGI」のJBCから、「今日も明日もGIデー」と2日間にわたる競馬の祭典を提案させていただきました。ダート競馬の魅力を満喫できる2日間を演出する所存ですので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

◆岩本 洋 調教師会長コメント

川崎でJBC開催を実現したいというのは神奈川県調教師会にとっても願ひでもありました。川崎の場合は距離の点で厳しいかとあきらめていた部分もありましたのでこうして距離の理解を得て決定したことは喜ばしい限りです。現状を打破する起爆剤になってくれることを期待しています。

ブルーワレンダー完全なる逃亡劇

第34回戸塚記念はブルーワレンダーの完勝だった。台風の接近する悪天候のなかレースの主導権を握ると後続を引きつけつつ直線ではあっさり突き放してゴールイン。2100mを逃げ切った。

「距離未知数の不安はあったが、1番枠ということもあってスピードを生かして自分のペースに持ち込めればと思っていました。父ワレンダーからも適性はあるだろうと。ただ、この産駒はどうもゲート難が出やすくブルーワレンダーもそういう面があり練習を積んで今に至っている。また兄のイシノファミリー同様に母系の激しさもある。その気性面がレースで良い方に出てこまできたが、モマれたらどうか、馬込みに入ったらどうなるか等まだ課題も抱える。だから他場に使いに行けずにいた。これは年齢や経験で変わってくるもの。そろそろ外にも視野を広げたいと思っている」と足立勝久調教師。現在は高崎の育成場で休養を兼ねてトレーニングしているが、1、2ヶ月で帰厩する予定だ。父ワレンダーにとっては産駒の初重賞勝ちとなった。

父ワレンダーから適性はあるだろうと。ただ、この産駒はどうもゲート難が出やすくブルーワレンダーもそういう面があり練習を積んで今に至っている。また兄のイシノファミリー同様に母系の激しさもある。その気性面がレースで良い方に出てこまできたが、モマれたらどうか、馬込みに入ったらどうなるか等まだ課題も抱える。だから他場に使いに行けずにいた。これは年齢や経験で変わってくるもの。そろそろ外にも視野を広げたいと思っている」と足立勝久調教師。現在は高崎の育成場で休養を兼ねてトレーニングしているが、1、2ヶ月で帰厩する予定だ。父ワレンダーにとっては産駒の初重賞勝ちとなった。

<的場文男騎手>

強かったですねえ。思った以上にグングン伸びてくれました。スピードとダッシュ力がこの馬の良さではありますが折り合いさえつければ2、3番手の競馬もできるはずですよ。

元々少し気むずかしい面があるんですが、それも落ち着いてくるでしょうし、まだまだ良くなっていく力のある馬です。

誕生日？ そうなんです。この日はちょうど誕生日でしたのでおかげさまでダブルの喜びとなりました。



9月7日 戸塚記念 2100m

☆第34回戸塚記念優勝☆



◆ブルーワレンダー◆

父ワレンダー
母アーデルサラ
牡3歳 鹿毛 2002年5月4日
馬主 ● 黛 大介
調教師 ● 足立勝久
騎手 ● 的場文男
厩務員 ● 富士木和男
生産者 ● 橋本牧場

<富士木厩務員>

戸塚記念1本に目標を絞っていたので自信はありました。勝てて嬉しいですよ。

枠もスタートもよかったですね。逃げて直線また伸びて突き放すといういいレースができました。馬場はどういう馬場でもこなすタイプです。気性は荒いですが距離はこなせます。

レース後はコズミなど反動は出ないタイプですし、感性のよいところがイシノファミリーとよく似ています。顔はリトルフェリスにそっくりです。今はまだオクテなところがありますが少しずつよくなっているのもまだ伸びると思います。

キングセイバー再び川崎へ

平成14年東京ダービー馬キングセイバーが昨秋の中央移籍後障害3戦を経て9月15日古巣である八木仁厩舎に再転入しました。10月7日には大井の調教試験に登場し1分39秒5。埼玉新聞杯で南関東復帰に向けて調整されています。

遠征の記録 平成17年9月

9月11日札幌競馬11競走札幌日経オープン(サラ3歳上 OP 芝2600m)にコスモベルモット(河津厩舎)が出走し好位で食い下がるも6着。「よくガマンしたと思いますが、OP相手になるとさすがに切れる瞬発力がおよびませんでした。芝で流れに乗るスピードありますし、もう少し短い距離なら」と鞍上の石崎駿騎手。同日の水沢競馬で行われた第13回青藍賞(サラ3歳上 1600m)にはシンブウオペラ(内田勝厩舎)が参戦。好スタートから道中ピタリと2番手を追走、4着と健闘した。「ハナ行ければいいけど」と酒井忍騎手が悔しそうに第一声。「水沢のような深い馬場はこの馬に合うんじゃないかな。ペースが遅かったただけにもっと内枠だったらハナ行けてまた結果は違っていたかも」。

9月17日中山競馬第9競走カンナステークス(2歳 OP 芝1200)にスプラッシュビート(高月賢一厩舎)が出走。張田騎手を背に後方を進んだが伸びを欠き7着。

9月25日盛岡OROカップ(芝1600)には田邊厩舎のエンドレスワルツが山崎誠士騎乗で参戦。「雨降って予想以上の重い馬場になった。不完全燃焼な結果」というように後方から12着。

※※あの仔の素顔を教えて！※※

④ カタズオノンデ (佐々木吉郷厩舎)

今回は桜姫さんから、佐々木吉郷厩舎のカタズオノンデにリクエストをいただきました。

私がファンになったきっかけは、初めて彼女の顔を見たときからです。なかなか勝ち星に恵まれず、でも着実に掲示板にのるあの勝負根性はすごい。

小さな身体で一生懸命走る彼女の姿は私に勇気を与えてくれるし、彼女の優しい目は私を癒してくれる。とにかくケガや病気をしないで元気でいてくれることが一番です！

現在 4 歳のカタズオノンデ。道営デビュー時から通算 31 戦中、着外はわずか 6 回。堅実に走っている牝馬です。担当の島崎厩務員からは「カタちゃん」と呼ばれ、可愛がられています。

性格ですが「普段から大人しく、猫みたい」との事。余計なところで力を使わない賢い性格のようです。しかし人見知りをするところがあるらしく、初対面の男の人には少し苦手だとか。でも子供や女性は大丈夫。やさしく迎えてくれます。

そしてとても人懐っこい性格です。取材の間も島崎厩務員にすりよって、甘えている姿がとても愛らしく、まるで実の親子のよう。本当に仲の良い二人（一人と 1 頭）なのです。

ちなみに島崎さんが来るのも足音でわかるので、こっそり厩舎に来て驚かせようとしてもしっかり気付いているのだとか。

小柄な馬体の彼女ですが、食欲も旺盛でしっかり食べます。好物は、バナナやリンゴなど甘い物。それでも全く太らないうらやましい体型です。

さてレース時ですが、パドックでも非常に大人しいそうです。のんびりした性格からか、ゲートはあまり上手ではないらしく「どっこいしょ」という感じでスタートするようです。そして勝負は 4 コーナーを回ってから。しっかり追い込んで来るタイプです。

小さな体ですが、怪我も病氣もしない、まさに健康優良児。デビュー以来コンスタントに走っています。ちなみに獣医さんを苦手とする馬が多いのですが、彼女は平気との事。

仲良しの馬は、隣の馬房にいるクイックモーション。実はこの二頭、100 kg 近い体重差があるのです。見た目の大きさはかなり違いますが、馬が合うのでしょう。レースでも 2 走前はこの二頭でワンツーフィニッシュを決めました。

「しっこいくらいなついている」と島崎厩務員の事が好きで好きで仕方ない様子のカタズオノンデ。そんな彼女を大切に、優しく見守る島崎さん。しっかりとした信頼関係で結ばれた絆の深さを感じさせられます。これからの目標は？という質問に「丈夫で長持ちして欲しい」と即答していただきました。

小さな体でいつもひたむきに走るカタちゃん。これからの走りにも注目です。

【カタズオノンデ】牝 4 歳 父サンデーウェル 母オグラトウショウ (母父トウショウボーイ)



中地雄一騎手 所属変更



中地雄一ジョッキーが 10 月 1 日付で長谷川三郎厩舎に所属変更しました。

「気持ちを新たにがんばりますので応援よろしくお願ひします！」と新しい環境下で張り切っています。まずは待望の初勝利を！

◆◇HAPPY BIRTHDAY 10月生まれ◆◇

大野秀人厩務員 (2 日)
本田博文厩務員 (7 日)
滝沢茂厩務員 (10 日)
前住和寿騎手 (15 日)
三浦邦男厩務員 (19 日)
甲斐年光騎手 (24 日)
澤藤茂太郎厩務員 (25 日)
山元義伴厩務員 (30 日)

稲垣純緒調教師 (3 日)
西田秀男厩務員 (9 日)
原喜久夫厩務員 (10 日)
井上英治厩務員 (16 日)
戸川理彩厩務員 (20 日)
尾上慶久厩務員 (24 日)
柴田秋生厩務員 (28 日)
加藤正臣厩務員 (31 日)

津久井淳厩務員 (4 日)
鈴木義久厩務員 (10 日)
長谷川蓮太郎調教師 (14 日)
佐藤政光厩務員 (19 日)
原三男調教師 (24 日)
中野五男調教師 (25 日)
伊東康正厩務員 (30 日)

★ 三浦 邦男 厩務員 (今井輝和厩舎) ★

競馬の世界に定年はない。三浦邦男厩務員は 10 月 19 日で 72 歳になる。

群馬で百姓をしながら競走馬も持っていたという父の影響で、16 歳の時に高崎で厩務員になった。

4 人兄弟の一番下だった三浦厩務員。一番上の姉が川崎で調教師兼騎手をしていて今井輝平調教師のところに嫁いだ関係もあり、20 歳の時に川崎にやってきた。

当時の小向の話を聞くと、厩務員住宅もなく、馬房の上に板を敷いたところで寝泊りしていたという。トイレは厩舎の横にある調教師の家で借り、食事は調教師の奥さんが作ってくれ、30 分歩いて銭湯へ通っていたという。

今は堀に囲まれている小向も、堀はなく、大きな池が広がっていた。運動場では米が作られていた。蹄の悪い馬には、自分で編んだワラジを履かせ、当時は蹄油（蹄の乾燥やヒビ割れをふせぐために塗るもの）もなかったのも料理で使う油を使っていた。もちろん今とは与える飼料も違い、ドジョウを与えていたこともあったそうだ。ササ針の代わりに、ヒルをくっつけて悪い血を出していた。洗い場の蛇口をひねっても、もちろんお湯なんて出てこない。ドラム缶に水を入れて下から火をつけて焚いていた。三浦厩務員はしきりに「今とは全然違って・・・」という言葉をおりませて話してくれた。

長い厩務員歴の中では色々な馬を見てきた。骨折をして球節（蹄の上の丸い部分）が地面にくっついてしまった馬もいた。4 連勝したあとの出来事だった。その後 8 ヶ月休養して、復帰して 5 連勝を飾った。種子骨じゃなかったのが幸いだったというが、夏場だったということもあり、傷口にはウジ虫がわいていたという。

現在担当しているのはハイアーザスカイ。前走の浦和では、装鞍所で音にビックリしてしまったそうだが、力はある馬なので期待していると話してくれた。休みの日は釣りに行くそう。多摩川では鯉や鮒、ウナギが釣れるらしい。パチンコや競輪も好きだし、後樂園、神宮、横浜スタジアムなど、行ける範囲の球場に足を運ぶほどの巨人ファン。

長い厩務員歴だが、馬を叱ったことはない。「馬は人を見るからね。こっちが優しく接すると馬もおっとりするよ。この仕事をやめたいと思ったことは一度もない。おもしろいからね。」と、馬に対する愛情はたっぷり。「馬とは俺の命だよ。」こんな言葉をサラッと云ってのけるところがカッコイイ。それが 72 歳という年齢を感じさせない若さなのだった。



◎○▲△おつかれさま△▲○◎
平成 17 年 9 月の退厩馬

秋山	トリアノン	牝 5	繁殖
山崎	ボトムフィッシャー	牡 4	中央
福島	フジノカンク	牡 5	栃木県
内田勝	オルターネイティヴ	牝 5	北海道
津久井	アルマイル	牝 3	千葉県
足立	セブンチャンピオン	牝 3	茨城県
佐々仁	ホウザントレジャー	牝 3	石川県
八木仁	トウカイノーブル	牡 3	神奈川
中野	バステトビコー	牝 5	福島県
佐々仁	ズングリ	牡 3	群馬県
山崎	ヤマニンコクーン	牝 4	群馬県
照沼	カネショウツバサ	牡 3	福島県
照沼	カネショウアサカゼ	牡 3	福島県
池田孝	フラワースコール	牝 5	福島県
八木仁	クリーンゴールド	牝 4	埼玉県
佐々吉	アメリカンハット	牝 7	北海道
河津	マイネルスタード	牡 6	高知県
安池	アトン	セ 8	高知県
河津	ワカクサミラクル	牡 4	東京都
内田勝	フリートソニック	牡 3	群馬県
岩本洋	グランドパワー	牡 6	神奈川
田邊	ラッキーホメ 2003	牝 2	神奈川
長谷蓮	トキノアジュディ	牡 6	栃木県
長谷三	マルヨシクイーン	牝 3	北海道
内田勝	クリアライフ	牡 4	岩手県
三橋	カネマサヴィーナス	牝 4	千葉県
田島	ヒカルチャンプ	セ 7	群馬県
池田	グルントシュール	セ 3	神奈川
八木仁	ローズリコ	牝 3	岐阜県

2005 川崎競馬スーパー POG 会員募集中！ 締め切り 10 月 31 日
詳しくは <http://www.kawasakikeiba.com> をご覧ください。

* staff room *

● 2005 年秋まつりが 9 月 18 日無事終了しました。秋とは思えないピーカンの真夏日でありながら 13000 人ものファンが来場。会場である内馬場には笑顔があふれていました。来秋には JBC 開催が決定しています。川崎競馬が決断した正念場に向けて力を合わせて突き進む事になるのでしょうか、「前に進むことしか考えていない」と岩本調教師会長もキッパリ。今、我々にできることは何なのか！改めて考えてみたいと思います。

● 「秋」ですね。福島厩舎にりんごの木があり実りの秋を迎えています。秋といえば食欲の秋でもあります。佐々木 (吉) 厩舎のクイックモーション、540 キロの大きな女の子。食べっぷりもいいです。でも食散らかしたりしないで桶に入れておいてあげようという感じ。水を飲むときもゆっくり口をつけて飲みます。お食事マナーはさすが女の子です。逆に川崎に帰ってきたキングセイバー、こちらは…。水を飲んで飼いの葉食べているのはよく見るのですがこの子は水を口につけ含むのですが飼いの葉桶に入れようとしているのか水桶から飼いの葉桶の間で水が口からビシャー。足元は水浸し。でも気にせず飼いの葉を一口食べてはもぐもぐしながら水桶にいった水ビシャーで飼いの葉桶にという繰り返し。顔は飼いの葉がくっつき床は水浸し。お食事マナーは…さすが男の子というべきかな？



● この間初めて馬のワタリを編んでいるところを見ました。担当馬が少しでも綺麗に見えるようにとしっかり丁寧に編んでいくその姿にしばらく見とれてしまいました。あまりきつく結ぶと馬も走りづらいそうです。ちょっとした加減はやはりプロの技。すっかり凛々しい姿に仕上がりました。

● 今回のバースデーは大ベテランの三浦厩務員に登場してもらいました。昭和 30 年代のことを鮮明に話してくれる三浦厩務員の話を聞いているうちに、なんだかタイムスリップした気分になりました。川崎競馬の歴史は長いですが、当然、時代とともに環境が変わったり、便利になったりしますが、三浦厩務員のように過去を語ってくれる方の存在は貴重です。今回は本当にいいお話を聞かせていただきました。